

「自分も味のある 工芸品を作ってみたい」



とうげ じゅんいち
嶋 准一 さん

昭和24年生まれ。55歳 花川南在住。
寿司職人として笹切りを極めるほか、切り絵、松ぼっくりフクロウなど、常に新しいものづくりに挑戦する。

松ぼっくり(松かさ)で作られたフクロウがずらり。どれも十五センチから三十センチを超す大型のものばかりだが、よく見ると色や形、顔つきなど一つ一つに個性があって、手作りならではの「温かみ」が伝わってくる。

「今は効率重視、大量生産の時代。でも、それじゃ味気ないと思うんです。手間がかかっても自分らしさを表現していきたい」。花川南で寿司店を営む嶋准一さんが松ぼっくりのフ

クロウを作り始めたのは半年前。阿寒に住む木彫家の手による優美なフクロウをテレビで見て感動し、「自分もこんな味のある工芸品を作ってみたい」と一念発起した。



▲松ぼっくりはかさをすべてはずして使う。ここから寿司職人の繊細な技法が芸術として生かされていく。

仕上げに目とくちばしをあしらひ、生き生きとした表情を丹念に作りあげていく。

こうして根気のいる作業を、嶋さんは忙しい本業の合間を縫って一カ月ほどで完成させる。細かな手仕事は大変だが、うれしさもあるという。出来上がりは今か今かと楽しみに待っていてくれる人たちがいるからだ。

「店に来るお客さんからはし」と言われるたびに、どんどん差し上げてしまっ。だから半年間に三十体以上を作りましたが、手元にはその半分も残っていない」と嶋さんは苦笑いする。

一方で思いがけない出会いも生まれた。芸術愛好家であった常連客の一人が大丸札幌店の展示会担当者に嶋さんを紹介したのが縁で、今年七月に同

百貨店での個展開催が決まった。もうすぐ、寿司店の一角に念願の手作り工房も完成する。そこで大工だった父親の影響を受け、身近な木材で物づくりに熱中していた子どももこのころ、楽しかった気持ちのまま作品に込めていきたいという。嶋さんの松ぼっくりのフクロウが、初めて見たのどこか懐かしさを感じるの、きつとそのせいなのだろう。

「嶋 准一 個展」

嶋さんの松ぼっくり作品が一堂に会します。なお、当日は展示即売となっています。

◆日程:7月14日(水)~21日(水)

◆場所:大丸札幌店
7階催し物会場



編集後記

▼私は注射が嫌いです。でもそれは私だけではなく、ペットも同じようです。昨年狂犬病の予防注射を受けた犬たちの姿を撮影しました。おとなしく注射される犬もいましたが、中には泣き叫び、暴れる犬もいて、そんな姿を見て共感を覚えたものです。今年もそんな犬たちの写真を撮り今月号に掲載しようと思つたのですが、取材日はあんなに雨で断念してしまいました。天気も犬たちの気持ちに共感したのでしょうか？(S)

▼先日、公園に写真を撮りに行きましたが、その日はあいにくの雨で誰もいません。しばらく人を探している間、犬の散歩をしている方を発見。写真を撮らせてもらいました。でも、結局広報には違う写真を使うことに。撮影に協力していただいたのにごめんなさい。(K2)

広報いしかり

■編集・発行/石狩市企画財政部市民の声を聴く課
〒061-3292 北海道石狩市花川北6条1丁目30番地2
Tel.0133-72-3153 Fax.0133-74-5581
【ホームページ】<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp>
【携帯電話用HP】<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/k/>
【Eメール】PR@city.ishikari.hokkaido.jp

■印刷・製本/株式会社アイワード
この広報紙は再生紙を使用しています。
印刷インキは、大豆を利用した植物油インキを使用しています。

